

豊高の卒業生紹介



イングランド・プレミアリーグ

サウサンプトンFC

ヨシダ マヤ

吉田麻也 選手

第22回卒業生 (平成19年卒業)



Photo by Paul Watts / SouthamptonFC

名古屋グランパスユース時代はキャプテンとして活躍。2007年はJ1名古屋グランパスに昇格(背番号34→4)。昇格1年目からレギュラーとして活躍。フェルホーセン監督、ストイコビッチ監督の下、守備の要、センターバックとして活躍した(2007年~2009年)。

2008年7月14日、北京オリンピックサッカー日本代表に19歳ながら選出され、背番号3を背負った。2009年1月 アジアカップ・日本代表として招集され、イエメン戦に出場。平成2009年12月オランダ1部リーグ(エールディヴィジ) VVVフェンロ(本田圭祐選手 が在籍していた)への完全移籍が決定。リーグ戦32試合にDFとして出場した(得点5)。2011年AFCアジアカップ2011に臨む日本代表メンバーに招集され、フルメンバーでの実質代表デビュー戦となった。ヨルダン戦でロスタイムに1得点を決めるなど、アジアカップ優勝に大きく貢献した。

W杯アジア予選の日本代表メンバーに選出され、2011年9月2日に行われた3次予選第1戦北朝鮮戦(埼玉)の後半アディショナルタイムに劇的なゴールを決めて、チームの勝利に貢献した。また、2012年7月ロンドン五輪サッカー競技U23日本代表にOA(オーバーエージ)枠で選出され、キャプテンとしてチームを牽引し、4年ぶりにベスト4を達成した。

自身初の著書「サムライDays、欧州Days」~夢と、サッカーと、ブログと~(学研)を出版。2012年8月イングランド・プレミアリーグのサウサンプトンFCに完全移籍し、リーグ戦32試合に出場した。2013年6月W杯アジア最終予選でDFの柱として活躍し、2014W杯大会出場決定に貢献した。2014年W杯ブラジル大会日本代表メンバーに選出。本大会では全試合にスタメンで起用され、DFの柱として活躍した。

2016-17シーズンはサウサンプトンFCでスタメンに定着。2月26日、EFLカップ決勝戦ではマンチェスター・ユナイテッドと対戦し、先発出場で接戦の末2-3で敗れたものの、大会ベストイレブンに選ばれた。4月29日、第35節のハル・シティAFC戦では日本人選手として初のプレミアリーグ100試合出場を達成した。2017-18シーズン、自身の誕生日でもある8月24日に2020年まで契約延長したことを発表。開幕戦からレギュラーとして活躍し、開幕月となった8月のクラブ月間MVPを獲得。日本代表で唯一W杯予選の全試合に900分間フル出場することで、2018 FIFAワールドカップ出場へ貢献した。2018年6月、ロシアW杯メンバーに選出され、2大会連続出場を果たす。グループリーグでは3試合にフル出場し、ディフェンスリーダーとしてGL突破に貢献。決勝トーナメント1回戦ベルギー戦でもフル出場を果たすも、チームは後半ロスタイムに失点し、2-3で敗れた。試合には敗れたがイギリス『Sky Sports』で、ベルギー戦のマン・オブ・ザ・マッチに選出された。また、新たに編成された日本代表チームでは、代表を退いた長谷部誠に代わり、キャプテンに指名され、リーダーとしての活躍も期待されることとなった。

高校時代のエピソード

吉田選手は、高校時代からU-17、U-18日本代表として招集され、すでに国際舞台で活躍をしていた。それ以前に、グランパスユースの選手として日々の練習に励んでいたわけだが、一度として週末課題などの提出が遅れることはなかった！

実は在学中の吉田君に、遠征があるのに課題をきちんと提出し立派だ、と言ったことがある。すると彼は、「先生、僕はサッカーで食べて行くつもりです。プロになりたいんです。練習がすべてです。自分に負けて課題を出せず、居残り学習をしては練習ができません。練習の妨げになるようなことはできません。」と。代表合宿、国際試合というスケジュールの中、きちんと課題や予習をこなすのは並大抵のことではあるものではない。文武両道とは本当によく言った言葉で、学習も部活動もきちんとこなすことが、事を成就することの近道であり、証明なのである。まさしく吉田選手のように！

